

## 今後のセキュリティ分野において取り組むべき研究領域の具体例として どのようなものが考えられるか？

なお、研究領域の粒度としては、分野・領域に係る検討における「領域」に比し、より具体性があり、どのような研究をするのか、何を指すのかなどが表現されるとよいのではないか。

(「領域」の中の、一定の広がりをもった研究テーマ、あるいは「領域」をまたがる融合研究の研究テーマといったイメージか。)

## 今回の検討において、研究領域が持つべき 基本的な特性として留意したい点は何か？

### (例) ○ 国際通用性

例えば、国際的なカンファレンスで発表する、世界のトップレベルと交流する、世界と渡り合える研究グループが育つもの

### ○ 人材育成

例えば次の世代を担う博士課程取得者が育つもの

### ○ 次につながる

例えば、産業界や投資家が大きな関心を示し、共同研究やベンチャー起業を複層的に生み出すもの

例えば、重点的な研究開発プロジェクト(国プロ)に発展しうるような研究成果を複層的に生み出すもの

### ○ なお、研究領域を推進するタイムスパンは この分野ではどれぐらいか。

{ 他にはないか? }

## 研究拠点として推進する場合、研究拠点は どのような形態・特性が考えられるか？

○ デジタル時代の研究拠点として、セキュリティ分野は、フィジカルな集中研方式がよいのか、ネットワーク型がよいのか、知の結集のあるべき姿も検討してみたい。 (専門調査会意見より)

{ 他に何が考えられるか? }

## 今後のセキュリティ分野において取り組むべき研究領域の具体例としてどのようなものが考えられるか？

- 国内では、対象の潜在的な脆弱性の発見と検証、いわゆるオフensiveセキュリティの研究を得意とする研究チームが複数あり、ファンド活用に資する研究領域の具体例として考えられる。
- セキュリティは分野が広いのでIoTやサプライチェーンなど幅広くカバーできるテーマで隣接する分野と一緒に研究するテーマが良い。
- 暗号などの日本が強い分野、IoT・AI・量子など今後発展しそうな分野、日本が強いものづくりのようなサイバーとフィジカルを融合させる分野についてセキュリティに当てはめると良い。

## 今回の検討において、研究領域が持つべき基本的な特性として留意したい点は何か？

## 研究拠点として推進する場合、研究拠点はどのような形態・特性が考えられるか？

- 新型コロナ後の世界では物理拠点だけでは時代遅れであり、ネットワーク型とのハイブリッドの方が柔軟で良い。
- セキュリティ分野は様々な研究者が全国に散らばっているところ、IoTなど様々な技術が関わる形態のテーマでは関連技術がフルスタックで集まる拠点であることが大切であるがネットワーク型もあり得る。
- バーチャルとの組み合わせのハイブリッド型が良い。
- 拠点としてNICTの役割等について何らかの可能性がありうる。